

「出雲市総合ボランティアセンターとの意見交換会」について（報告）

1. 日時及び会場

令和2年10月28日（水）13:30～15:30 出雲市役所6階 議会委員会室、全員協議会室

2. 参加者

- ・出雲市総合ボランティアセンター運営委員会 8名
- ・出雲市議会広報広聴調査・推進委員会 8名

3. テーマ

「ボランティア推進都市」宣言を見つめ直そう
～ボランティアが息づくまちづくりのために～

4. 実施方法

議会委員会室において全体会を行った後、2つのグループ（議会委員会室、全員協議会室）に分かれ、「ボランティア推進都市」宣言中の4項目について1項目ずつ課題・解決策を中心に意見交換を行った。

その後、出された意見を共有するため議会委員会室において意見発表を行った。

5. タイムスケジュール

①あいさつ	3分	
②宣言の説明	5分	
③ボランティアセンターの紹介	15分	
④意見交換、まとめ	85分	
⑤発表	10分	
⑥あいさつ	2分	合計120分

6. 開催状況



7. 意見交換会での意見

別紙「各グループでの意見まとめ」参照

前文について

- ・「子供」は「子ども」、「老人」は「高齢者」、「障害」は「障がい」に変更してほしい。

テーマ①：自立と共生の考え方にたって、ボランティアの輪を広げます。

- ・ボランティアは人のためではなく、自分が幸せ・豊かになることが原点だと思う。それをもとに友達を募っていく、周囲の人たちと共生して豊かになっていく、輪を広げていく。
- ・自分自身が考えて判断して、そして自分にできることが何だろうと考えるのが自立だと思う。また、他者を生かす、他者のことを思いやることが共生ではないかと理解している。
- ・一般的に、自発性・自主性・社会性・創造性・開拓性・先駆性がボランティアのメッセージとしてあり、ともに栄えていく基本的な私たちの考え方だと思う。
- ・子供食堂をよくやるが、自分で作れる力がないと自分自身の自立にも繋がらないと考えており、子供の頃から料理ができると良いと思って活動している。
ブラジルの方と一緒に料理教室しており、料理すると自然と仲よくなれるので、どんどん広げていきたいと思っている。
1人でしか御飯が食べれない自閉症の方がいたが、何人かで一緒に料理をすると、その日はみんなと一緒に食べることが出来たエピソードがあった。食や料理は栄養だけではなく、すばらしいエネルギーを秘めてるという体感し、食を通じていろいろ輪を広げていきたいと思っている。
- ・高校生にボランティアを手伝ってもらっているが、まだ慣れてない部分もあり、1回きりで終わってしまうことも多い。内容を工夫してボランティアが継続してできるよう、ボランティア自身の質も高めていけるようにしていきたいと考えている。
- ・ボランティアはユニバーサルデザインであることを活動から学んだ。
インクルーシブ（みんな一緒に）、バリアフリー（障壁を取り除く）を自分で実践した内容を話す。インクルーシブな活動として、精神障がいや知的障がいの方、引きこもりの方などと一緒に同じ作業をして、笑い合い、話し合い、ともに一つのことを達成することを実践していた。バリアフリーを意識し、またその理解を参加者と続けた。ボランティアセンターの建物は完全バリアフリーであり、車椅子や様々な障壁がある方でも合理的配慮のもとに、活動しやすい素晴らしいところである。ボランティア活動は自分でデザインが出来る。視覚障がいの方に被災地支援のタイムキーパーをしていただくことが出来る。
- ・ボランティアは、自分のため、人のため、楽しむため、1つではなくそれぞれにあっていいと思うが、やはりそこにはその行為によって心が豊かになるということが1番大事ではないかと思った。また、ボランティアセンター設立以降、登録団体も個人会員も右肩上がりに伸びており、ボランティアセンターという組織がボランティアの輪を広げていると強く思った。（議員）

別紙「各グループでの意見まとめ（Aグループ）」

- ・自立は、他者を思いやる心、またそういったことで自分が幸せになる、こういった部分も自立の中に含まれるということは想像出来たが、共生というのは非常に難しいと思った。自分がやっている活動を周りが認めてくれるのも共生にも含まれるのではないかと思う。また、他者を認める心というのも、行政の部分で非常に重要な部分であり、この部分を教育の中で伸ばすことができれば、さらに質の高いボランティア活動に繋がるのではないかと思った。（議員）

テーマ②ボランティア活動によって人づくりを進め、健康で文化的なまちをつくります。

- ・ボランティアにおける人づくりは、お互いがお互いを磨き上げていくものではないかと思っている。健康をつくるためにいろんな活動をし、それにより出雲市の文化がますます発展していくというのがこの宣言の内容だと思う。お互いに切磋琢磨し、認め合い、支え合い、そして共生しながらやっていくと思う。
- ・ボランティアグループの中で一緒になって活動することによる人づくり、ボランティアセンターに集う中での人づくり、色々な人づくりがあると思う。ボランティアセンターは集いの場もたくさん設けており、その部分ではこの宣言の内容は達成できていると思っている。それと、健康という言葉は、精神的な健康や肉体的な健康も含まれているような気がして、ちょっとわかりにくい表現だと思った。（議員）
- ・スマートに「ボランティア活動によって人づくりを進めます」でよいのではないかと個人的には感じている。ボランティアを通して活動する中で、お互いに相手から受ける影響によって、人として一つ成長する、また良いと言われるように、みんなに喜んでもらえる方向へ変わっていくことが人づくりということなのかなと思った。
- ・人づくりという言葉は最終的に誰が対象になるかと考えた時に、最終的には自分のやったことが自分の成長に繋がると解釈した。自分がやった活動が人に喜ばれるようであれば、それは自らをより高い方向に導くと思うし、また、それに触れた方はしてもらえて良かったという感謝の念を抱くと思う。そういったことを1人でも多くの人が繰り返して、そして広まっていることによって、健康で文化的なまちになるだろうと思う。（議員）
- ・宣言中の人づくりは、思いやりのある人づくりであると思った。自分の活動の中で健康な食事を通して、自分を作ってるのは食だということを伝えていく。文章も簡単に「元気で活力のあるまちをつくります」のほうが分かりやすく良いと思った。
- ・自分は「人づくりを進める」という言葉が適切と考えず「喜びを分かち合う、辛さを共有し、よりそう」ためにボランティアをしている。ボランティアセンターですごく成長したと思っている。人を成長させたというわけではなく自分自身が成長した。ボランティアに関わり、心がどんどん健康になってきた。特に終わったあとに爽やかな気持ちで家に帰って家族にその話ができて、とて

別紙「各グループでの意見まとめ（Aグループ）」

もいい時間をもらうことができることから、ボランティアに参加できる環境を守ってもらいたい。コーディネーターの人たちの処遇をしっかりと守っていただきたい。減らすことを考えず、もっと仕事しやすい環境は何かを考えていただきたい。

テーマ③：世界のボランティアと手を結び、ともに平和に貢献します。

- ・国に垣根はなく、手を結びやすい関係である。
- ・ボランティアセンターの登録団体の中には、海外で被災したところに何かを届けようとかあると思うので、世界のボランティアと手を結びということは推進されていると思う。全国で初めてのボランティア宣言なので、そこに敬意を表しながら、ボランティアを推進していこうと市民が思っていたのが1番だと思った。（議員）
- ・食べ物の話になると外国の方もすごい話が弾み気軽に話せるようになる。世界のボランティアとていうとテーマが大き過ぎて抱えきれないが、気軽な食べ物から話をすると情報交換もでき、理解する力、理解してあげる心が出てくると思う。理解してあげることが世界の平和につながると思っている。

テーマ④：ボランティア活動を通して地球環境を守ります。

- ・持続可能な社会をつくるSDGsに関して、ごみの減量化と再資源化活動を通して、地球温暖化防止活動の推進をしている。地球環境をどう守っていくかという視点で活動している。地球環境が今1番身近な問題ではないかと思う。地球環境をまず知り、そして学び、私たちにできることをやる。そして伝える。そしてやったことを反省する。そして新しい計画を立てていくというサイクルを考えながら、身近な環境を守っていききたい。
- ・災害が起こった際には一旦物が壊れる、そして生活が立ち行かなくなったときに廃棄をするという方法で元の生活へ戻ろうとする。物を運びだし、そこから分別をすることは大変な労力がある。ボランティア活動を通して、また廃棄されるものを見ながら、我々が普段から地球環境に優しい、地球を汚さない、壊さないような生活物資を考えていく意識をして、またそういったものを積極的に取り入れていくような活動をさらに推し進めていかなければならないと思う。
- ・自分の活動ではエコクッキングができると思った。お湯を沸かすときにも蓋を締めたほうが早く沸くことや、片づけの際にごみの分別方法も取り組めると思った。ニンジンの皮やヘタのほうが栄養があるのでそこを食べようとか、残飯を余り出さないような話もしていけると思った。
- ・マイクロプラスチックの海洋投棄やエコ袋など地球環境に皆が注目している。ぜひ議員も、ボランティアセンターに個人登録し、興味のあるボランティアに参加してほしい。一緒に活動して見ることが、このヒアリングで聞いたことの検証にもなると思う。

テーマ①：自立と共生の考え方にたって、ボランティアの輪を広げます。

- ・なぜボランティアをずっとやっているかと考えると、やはり自分らしく生きたいからだと思う。それが自立ということ。私の時代は、女はこうあるべきというしがらみのようなものがすごくある時代だった。だから自分らしく生きるということが出来なかった。たまたま参加した地域の婦人会で、すごく自分らしく、自分に合っている気がした。みんながいろんな経験をして、その中で自分らしく生きられて、それが自分や地域、人のためにもなるような生きがいとなるボランティアを見つけるといいと思っている。
- ・自分らしく生きる、生きがいを持つためにはいろんな体験をしないと見つからないと思った。自分の関わりの中では、自分らしいということはアート体験を通じて発見していく作業だと思っている。自分で良い悪いを思える・言えることを教えていけたらと思っている。教育にもそれを下ろしてもらいたい。子供だけで、学校だけでやっても、家に帰れば逆のこと言われてしまったりして、子供がせっかく良いことを学んできたのに、家や地域では否定されてしまうというのはすごく効果がないと思うので、活動の中では子供に対するアートの前に、周りの人がそれを理解できるように大人へのアートや、同世代の人たちがアートに目覚められるようにずっとやってきた。臨床美術では、実際に自分で作品を描く体験をしてもらった上で感じてもらったところまで行き着いている。子供だけではなく、大人にもいろんな体験が出来るチャンスがあると良いと思った。

Q：大人へのアート、あるいは教育の場でのアート、臨床美術、ちょっとイメージが湧きにくいですが、具体的にどういうものを目指されているのか、どういう教育が必要なのか、どういった効果があるのか教えていただけないか。

A：アートの視点でいうと、島根は美術館に行くとか、演劇を見るとき、そういう鑑賞の体験にアクセスしにくい場所と思う。出来たとしても、意識が高い家庭や人、そういうものが好きな人、もしくはそういうことにお金が使えろということだと思う。そうではない潜在的に気づいてないや、行きたくてもいけない、時間がない、そういうところを鑑賞体験でクリア出来たらいいと思っている。実際にやってみる体験というのは、親子、小学生低学年もしくは未就学児と多いけども、子供のいないアラフォーの方のような人たちにも何かできるといいと思っている。

- ・ボランティアセンターの活動は青少年健全育成学校教育支援も大きな柱の1つである。いろいろな学校にボランティアの体験をしてもらい、福祉とかごみ拾いとかそういうことだけではなく、こういうのもボランティアということをや小さい時から体験をすることがとても大事だと思う。小さい時からが大事。ボランティアウィークに全幼稚園がボランティア活動しており、これを止めることなく、その広がりをもっと欲しいと思っている。ボランティア活動のために学校を訪れる方もとても多く、ボランティアの輪を広げたいという意識があるからだと思う。

Q：みなさんは地域教育にはどのような考えを持っているか。

A：子供が小学校卒業時にクラス全員で大社の弥山に登った。出雲の北山からこの出雲平野を眺めて、自分たちの住んでた町、育った町がどのような町だったか知り、経験して目に留めてもらい

別紙「各グループでの意見まとめ（Bグループ）」

たい。地域の中で地域の資源や歴史など、子供たちに伝え、学び、身につけてもらいたいと思う。

- ・コミュニティーセンターが学校と子供と一緒に活動をされている。子供が少ない地域のほうがより細やかに面倒を見ている気がする。若い人は働いてる人が多く参加が少なく残念に思う。例えば、小さいときに山で遊んだ記憶は大人になっても同じで、山に入ると落ち着くと思う。岩國市長の時には、木の名前を覚えましょうとか、山に登りましょうとか、そういうことを随分言われた。市長のそういう考え方で随分違ってくと私は思っている。
- ・地元では山の歩道を整備しており、毎年ボランティアに出かけ、草刈りや鹿柵の管理などやっている。西尾市長時代にふるさとの森の再生事業で木を植え、それを地元が引継ぎ、毎年下刈などを行っている。子供たちにも呼びかけるが、最近ではスポ少が忙しいとか、親子で登ることに抵抗があったりと出てくる方が少なくなり非常に寂しい思いがする。学校の子どもたちがなぜ初めの頃は多く来たかという、行政が学校を通じて子供たちに声掛けをしたからであり、行政が積極的に学校に対して協力してほしいということが少なくなった。学校の自主性も大切だが、協力してほしいということをもうちよっと言ってもいいと感じている。（議員）
- ・昔は暗くなるまで外で遊んで、トンボを見つけたり、タガメやタイコウチを見つけて喜んで、この自然がいつまでも続いてほしいというのを願いながら出雲で過ごしてきたが、その自然が変わった。最近ではテレビゲームやメディアなどがありふれ、若い世代も山へ行ったり、緑に親しんだりするのは止めているかなと思ったりする。そのほか、空き家が増えているのが気になる。母親の兄は高齢でひとり暮らしであり、夜8時ぐらいになると寝てしまい電話かけても全然出てこない。何かあって亡くなっていたり、災害でも起きたら大変だと思っており、ひとり暮らしの人を助けてあげるような仕組みをつくりたいと考えている。
- ・空き家とかひとり暮らしは、行政としても非常に気になる場所。地域のところに行政として手を入れていくことが、今は十分出来てない状況にあるんじゃないかと思う。それだから頼りになるのは地元のつながりというふうになってくると思う。そういった輪を広げていく中では、コミュニティーセンターや自治協会、自治会などの活動がしっかりと保っていけるように、何とかしていかなければいけないと議会のほうでも考えている。（議員）

テーマ②ボランティア活動によって人づくりを進め、健康で文化的なまちをつくりまします。

- ・3年ぐらい活動をやって感じたことだが、若い人たちは何かをやりたいが自分で立ち上げることは嫌だという。しかし、ボランティアを募集するとやってみようかと集まってくる。この商店街に拠点があるよ、こんな面白いイベントやっているんだよというきっかけを作ると隙間時間でやってみようとしてきてくれる。それは、学校とか、会社とか、家の往復だけじゃない居場所を求めてやってくるので、コアメンバーではないけども、そういうところに寄ってみたいというニーズがあることはすごく感じた。団体運営の中ではコアメンバーも必要だけど、そうじゃない様々な分担のメンバーも必要で、そういう振り分け方をすごく学ばしてもらっている。私たち

別紙「各グループでの意見まとめ（Bグループ）」

団体としても地域へ貢献ということで、商店街イベント等を活用させてもらってステージを使わせてもらったかわりに、商店街イベントへのボランティア派遣のようなことでリンクすることをやってきた。

- ・地域のイベントやボランティア活動に市職員や議員の姿をあまり見かけない気がする。皆さん、市民の一人なので積極的に参加し市民の暮らしを理解し市政に反映して欲しい。中には自治会に未加入の方もいる。また、ある企業では退職前に退職後の生き方についての研修があり大変役に立ったと伺った事があるが、市職員にはそういう制度はないものか？ぜひ、在職中からボランティアに関心を持ち、生きがいを見つけ充実した老後地域で過ごして欲しい。

Q：他県から来られた方からみて、出雲の方は自分でいろんなことを立ち上げてやるのは嫌いとかそういった面があるのか。

A：体験の差であると思うところもある。3つのタイプに分かれるが、①地域を好きだから盛り上げたくて来た人、②出雲または島根から出たことないの人、③出雲または島根で生まれ育って他県に行って戻ってきた人で、②の全然出たことないという人は動かない傾向が強い。そのほかの人たちは感性が高いので動いている。出たことないけども何か面白いことがあれば参加に来る人はいるが、自分から立ち上げようとする人は他所から来た人、もしくは他所に行ったことがあって差をすごくよくわかっている人。ほかにこんなやり方を知っていてできる。そういったできると分かるか分からないかも大きいと思う。

Q：夏の祭りでおろちまつりはもう復活する予定はないのか。あのような祭でここに住んでよかったという町ができるのではないかなと思う。都はるみさんの音頭が、頭の脳裏の中でこだまして懐かしいと思うけども、聞くときはもうないんだなあと思ったりする。何度かオロチを担がしてもらって威勢がよくてとても楽しかった。どうか復活させてもらって魅力ある町にしてもらえたらいいと思う。そのときは学校とか通じて関わりたいなと思ったりする。

A：すごく根づいてた大切な財産で文化であったが、2市4町が合併して、まずはその一体化を図りたい、壁をなくしたいというような中で、当時は地域個別のお祭りを市全体の祭りとしてやることに関してはちょっと控えるみたいな雰囲気になってしまったところがある。復活させたいという声が大きくなれば、また動かしていくこともできるのではないかなと思う。

テーマ③：世界のボランティアと手を結び、ともに平和に貢献します。

- ・ゲストハウスで日本語と英語、もしくは日本語とポルトガル語を交互にしゃべって、おしゃべりする会をされたり、たまたま泊まりに来た外国の方がいれば、定期的に子供食堂を地球食堂に名前を変えやったり、大人も子供も居合わせた人で交流をやっていた。
- ・外国人の方を含めた地元でのボランティア活動が、実を結んでいく可能性があるというふうにとらせていただいた。これからは多文化共生にどんどんシフトしていく中で、いろんなボランティアの方に活動していただいているというところではないかなと思う。そういった活動を通じて、それ

別紙「各グループでの意見まとめ（Bグループ）」

ぞれが知り合うこと、分かり合うこと、あるいは出雲に暮らしてる外国の方が安心して暮らしていただけるとか、そういったことに向けて活動していく、あるいは行政のほうでも力を入れていくことではないかなと思う。（議員）

テーマ④：ボランティア活動を通して地球環境を守ります。

- ・以前から環境問題に関して活動をずっと続けている。ごみを出さないイベントをしようということで、使い捨てのものは使わないイベントをする。食べ物を出すときも使い捨て物を使わず本物の器を使う。そういうことをすればごみが随分減ると思う。お茶を飲むときの紙コップやペットボトルなど、何をするときにも地球環境に関わってくる。行政からやっていただくといいと思っている。
- ・今日出された飲み物がペットボトルじゃなく紙パックですごくいいと思った。SDGs 持続可能な社会ということで、ペットボトルやプラごみ、地球環境などいろいろな問題が出ている。今年に入り2回ぐらい海岸清掃のボランティアに出たが、恐ろしいくらいにたくさんの発泡スチロールが5ミリくらいの小さな球状になって散乱し、拾っても取り切れない状態であった。やはりこうなる前にストップしなければならないということを感じた。地元の人が海岸清掃などできる範囲でたくさんされているが、やはり人口が減ってきたり、高齢化、仕事が忙しいなどで出来なくなっているの、何とか出雲市としてお金を出してほしいというのは言いにくい、環境を守ろうというところをもっともっと教育・普及を広げていきたいと思う。
- ・今年、出雲西高校の生徒と意見交換をさせてもらった中で、ボランティアされるサークルであるインタークラブの生徒にも出ていただいた。海洋ごみのマイクロプラスチックの調査をして、その清掃活動の中で、韓国の高校生の皆さんとも交流があり、そのことを韓国のマスコミが取り上げてくれたという話があった。マスコミに取り上げられると、やはり皆さんの意識も変わってくる。清掃活動の体験をすることも必要不可欠であるし、またそういった部分を市としても取り上げていくことがあってもいいと思った。（議員）